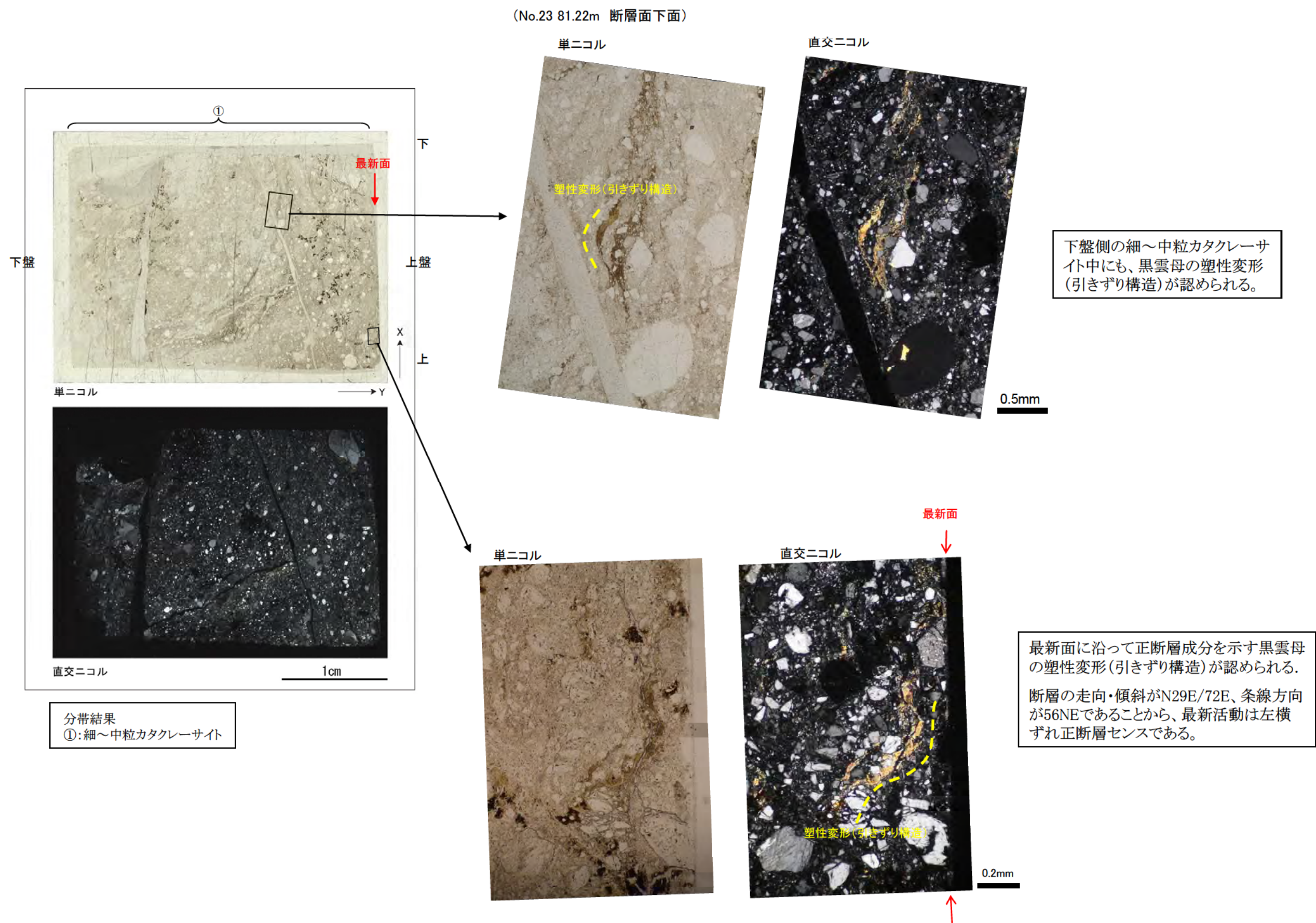




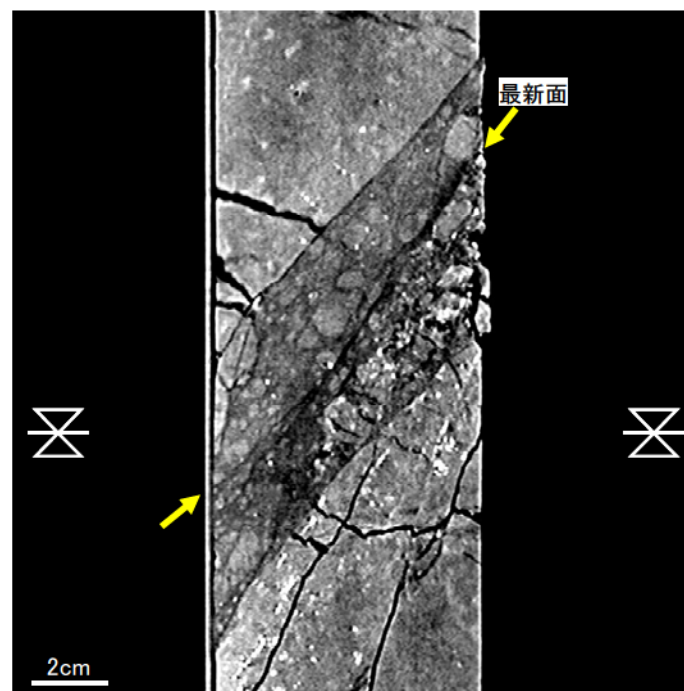
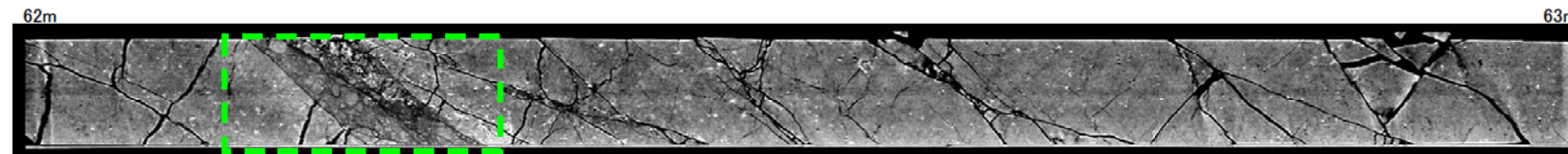
第 1. 4. 58 図(2) 丹生地区のボーリングコアの破砕部 薄片観察結果 (No. 23 孔、掘進長 81. 2m 付近)

【No.24孔諸元】

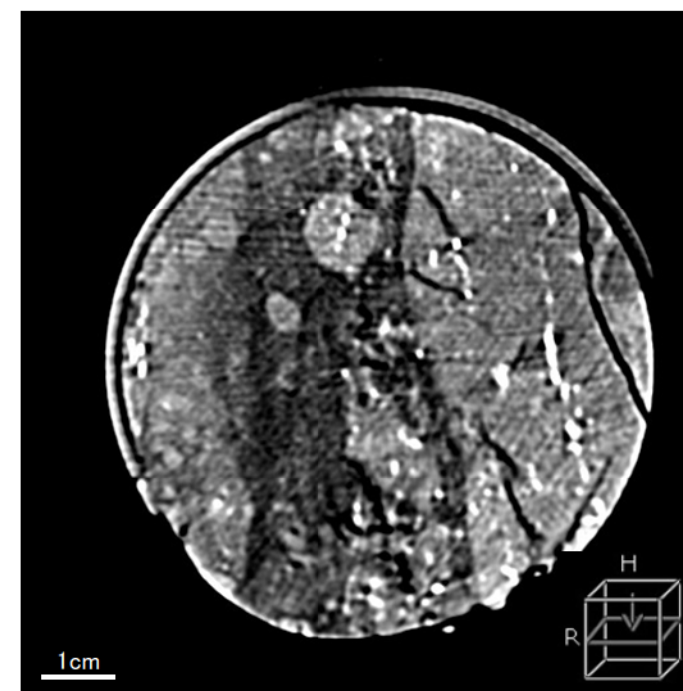
孔口標高:E.L.6.55m、掘進方向:N40W、掘進角度:60°、掘進長:120m



・No.24孔(深度62.17m~62.23m)
・幅4cmの礫混り粘土状破碎部(N25E/89E)



最大傾斜方向の断面



コア軸直交方向の断面

破碎幅約4cm

縦ずれ成分:不明、横ずれ成分:不明



上盤下面

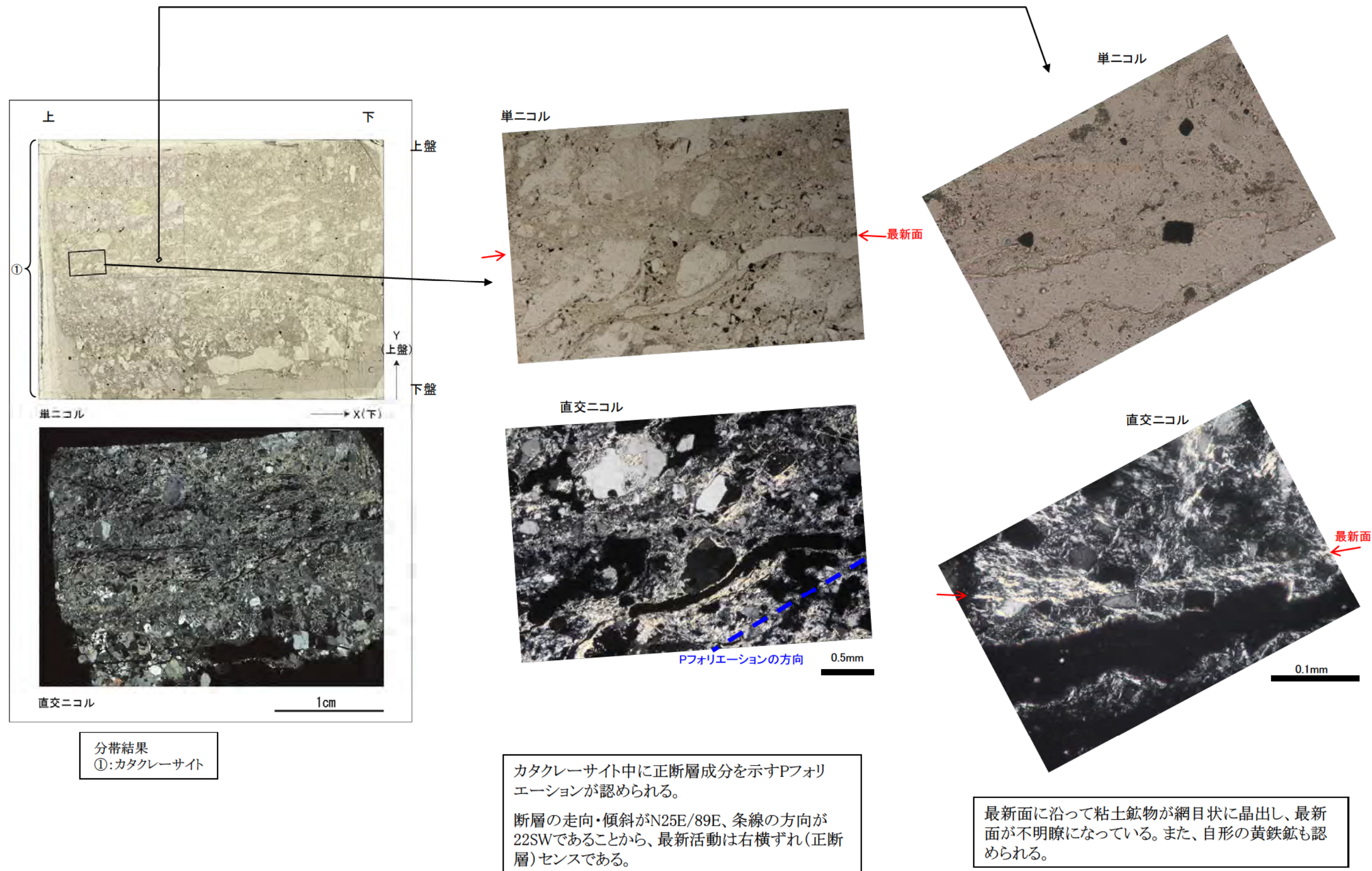


断層面1(最新面)の状況

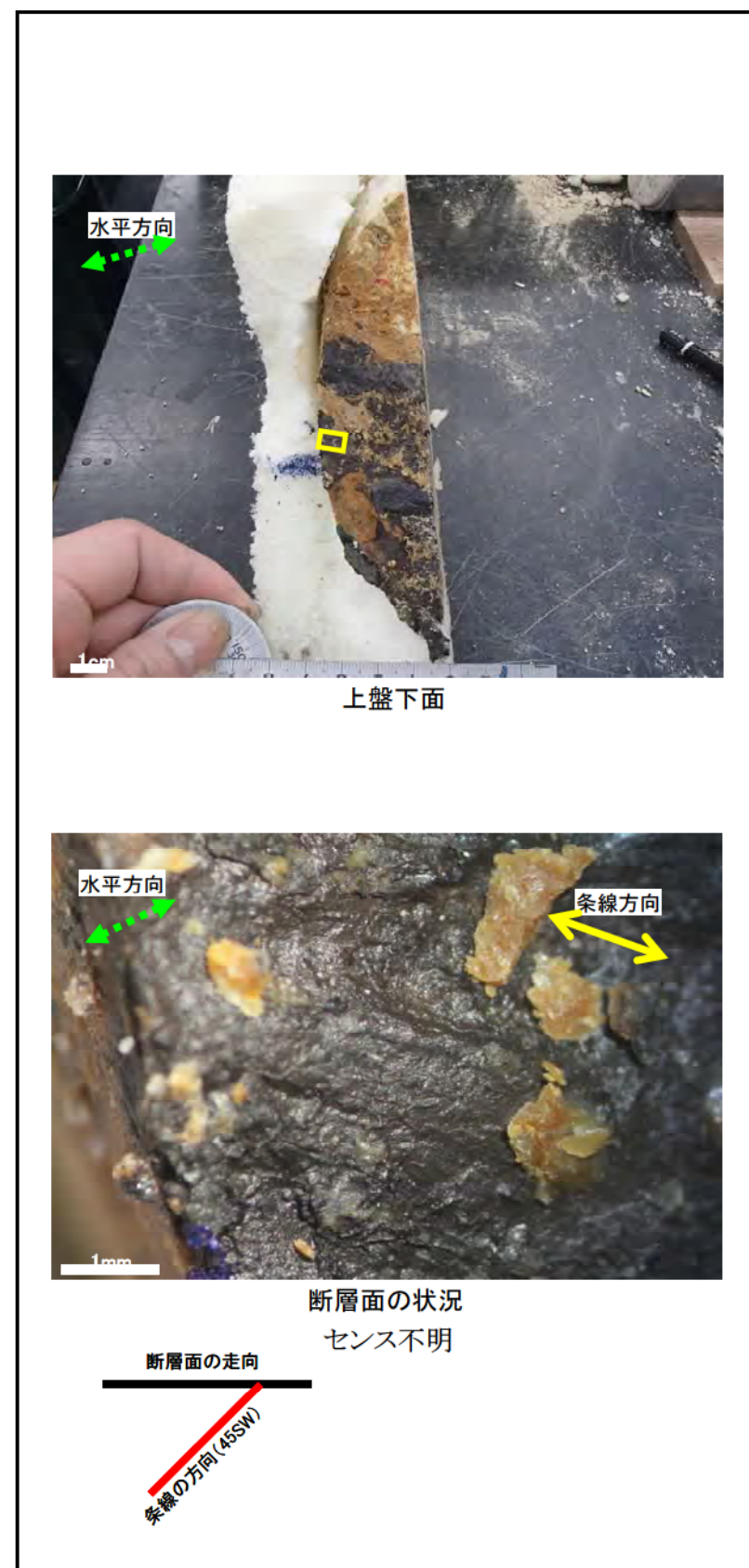
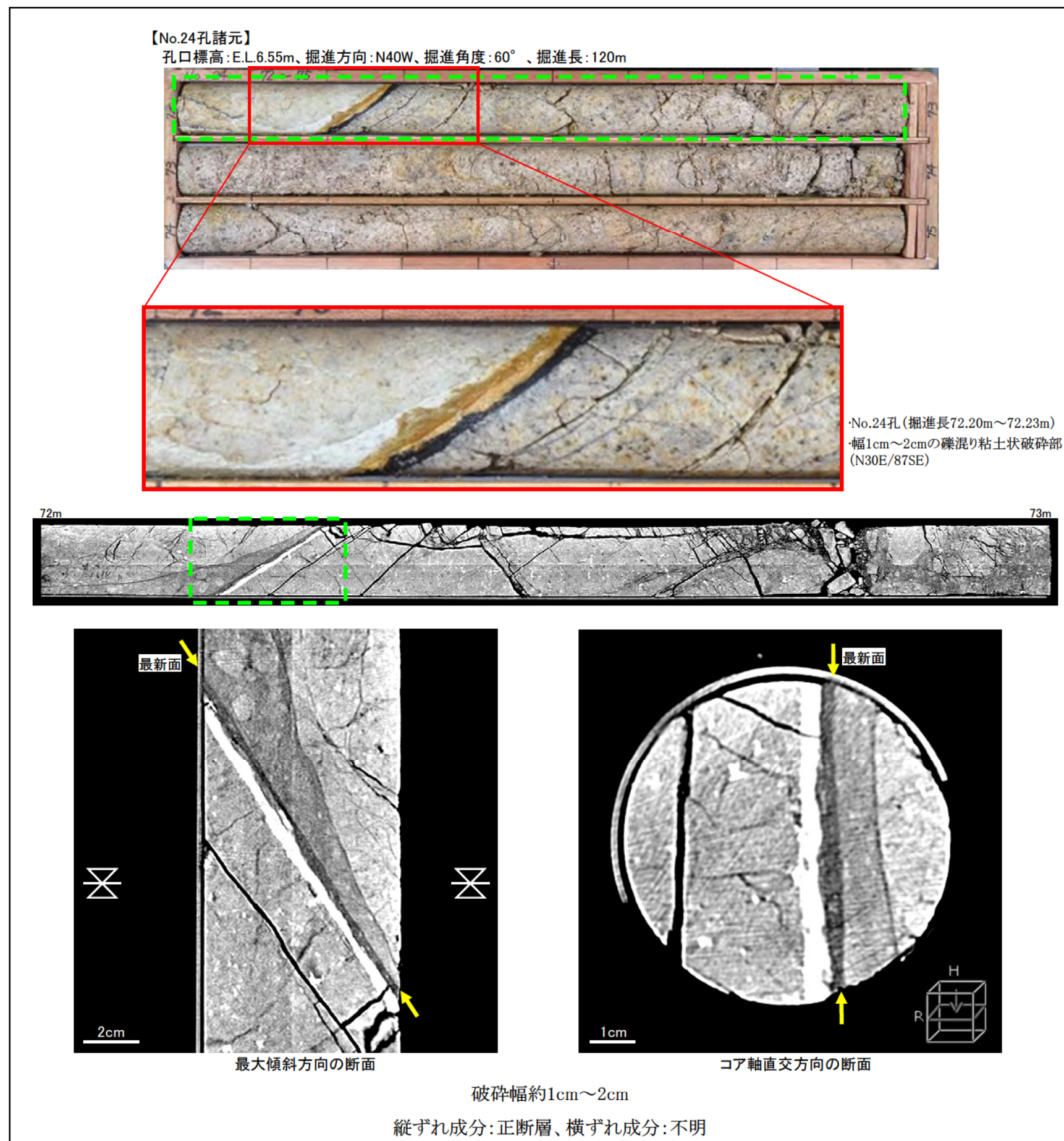
センス不明

断層面の走向
条線方向(22SW)

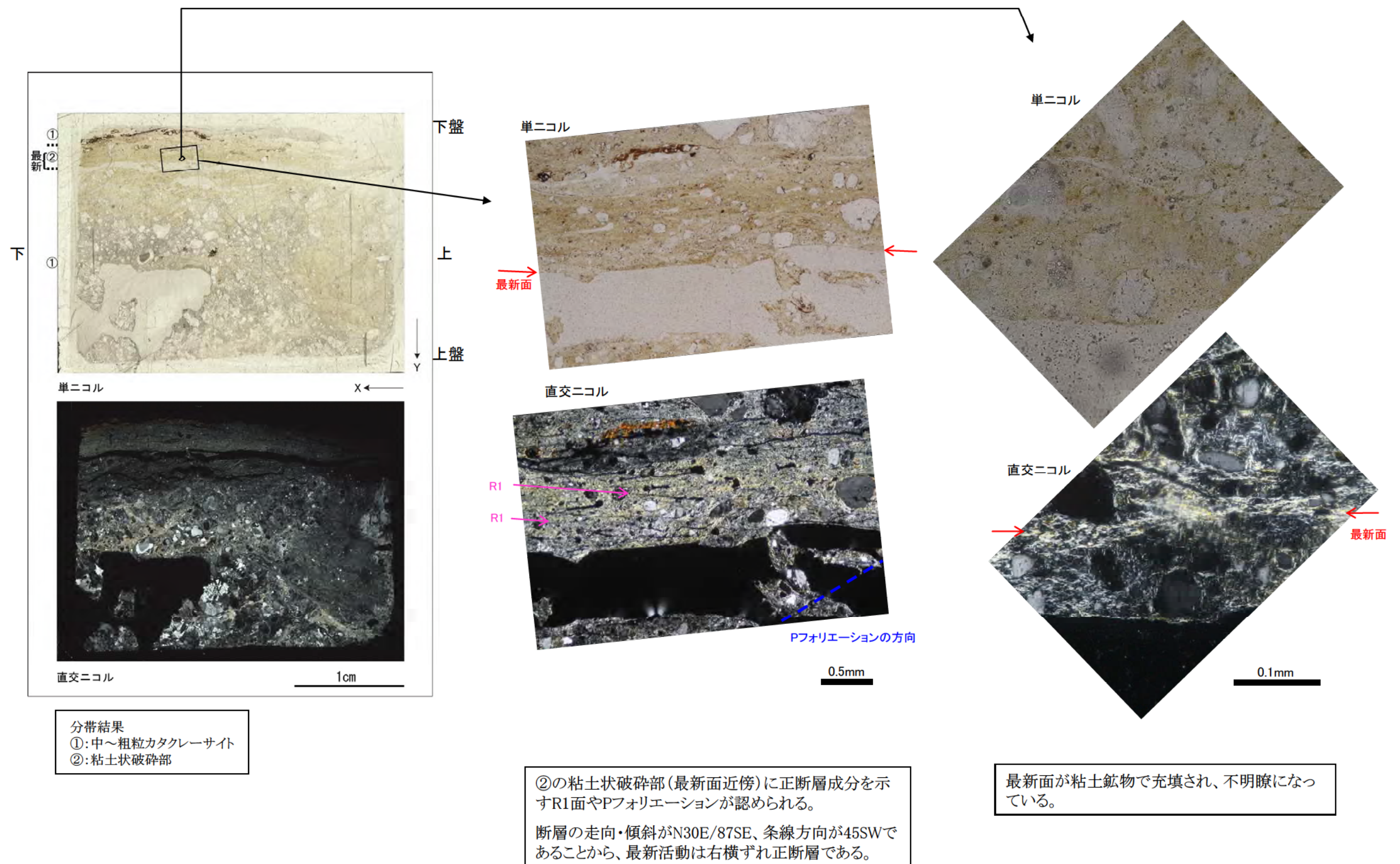
第 1. 4. 59 図(1) 丹生地区のボーリングコアの破碎部 CT画像観察結果及び条線観察結果 (No. 24 孔、掘進長 62. 2m 付近)



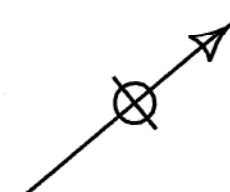
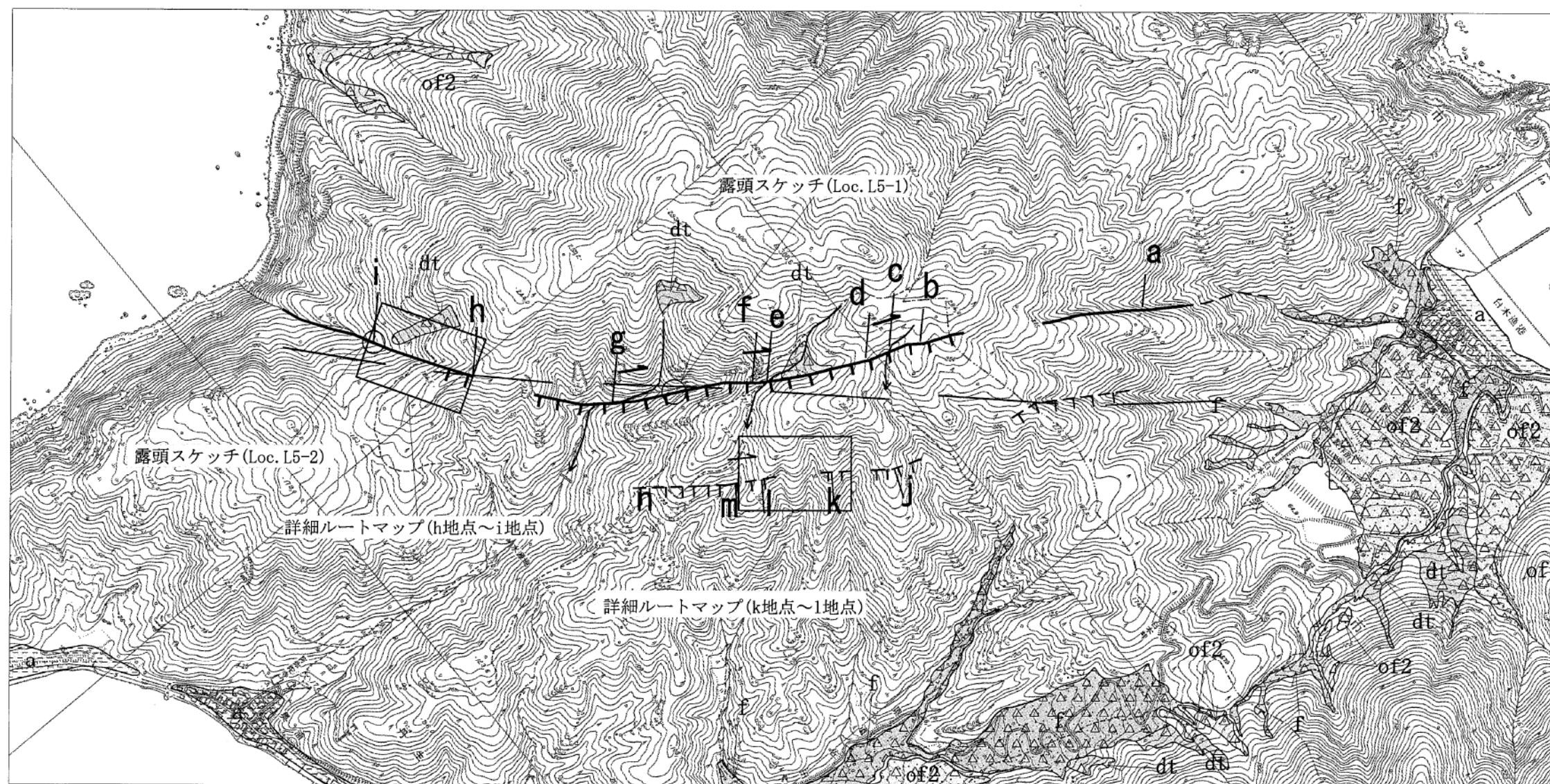
第 1. 4. 59 図 (2) 丹生地区のボーリングコアの破砕部 薄片観察結果 (No. 24 孔、掘進長 62. 2m 付近)



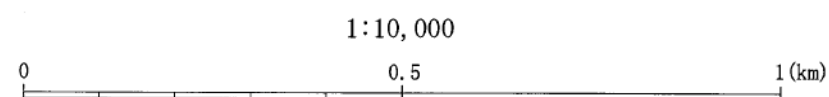
第 1. 4. 60 図(1) 丹生地区のボーリングコアの破碎部 C T画像観察結果及び条線観察結果 (No. 24 孔、掘進長 72. 2m 付近)



第 1. 4. 60 図(2) 丹生地区のボーリングコアの破砕部 薄片観察結果 (No. 24 孔、掘進長 72. 2m 付近)

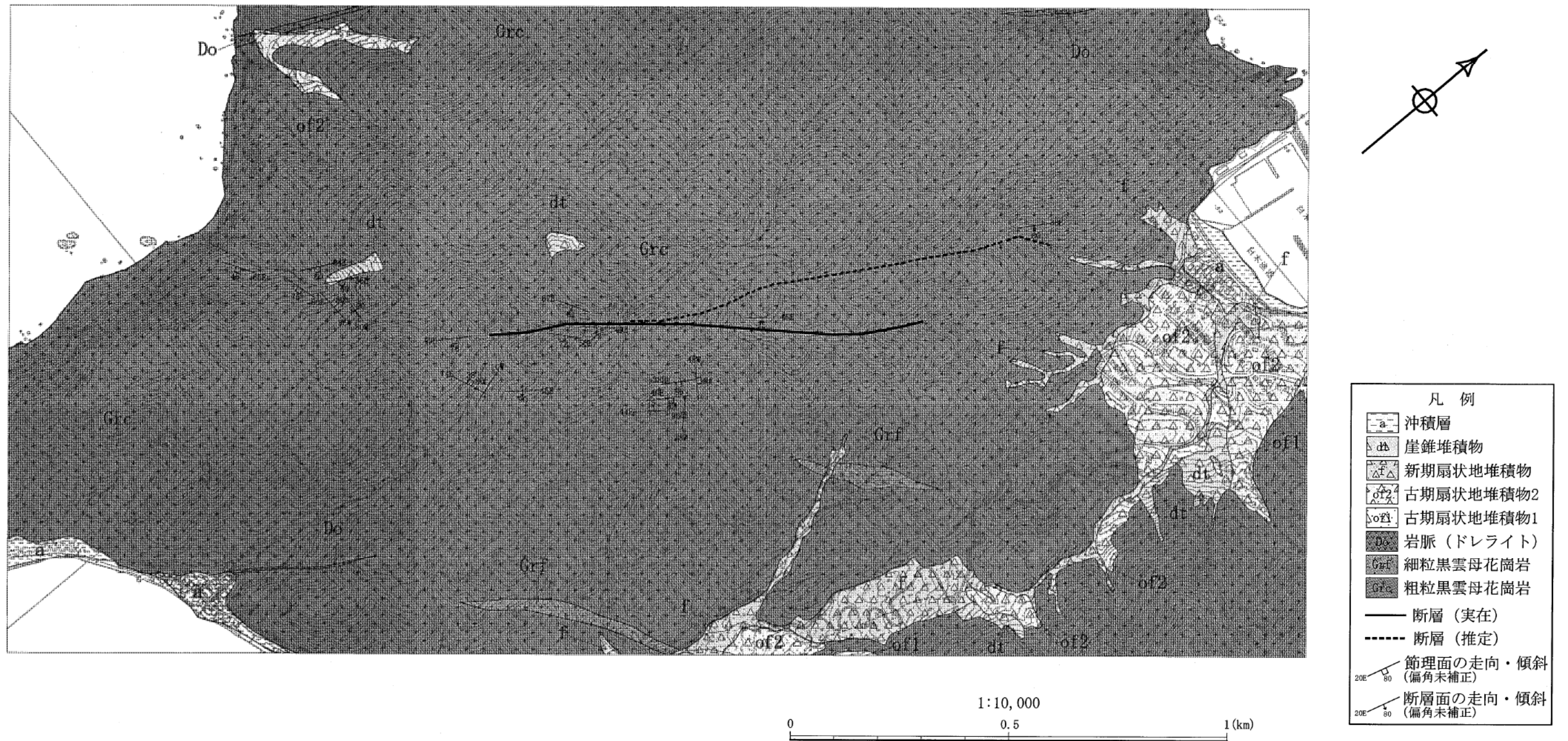


地形面の凡例	
	沖積低地面
	崖錐斜面
	新期扇状地面
	古期扇状地面2
	古期扇状地面1

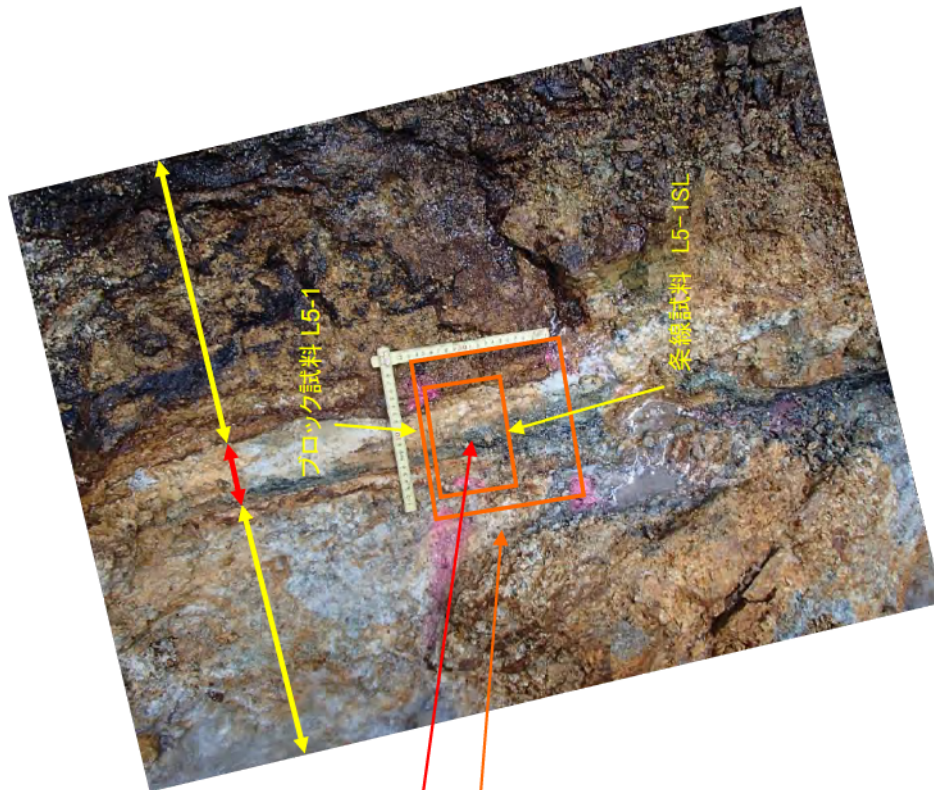
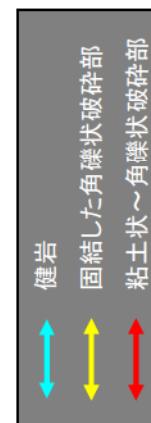
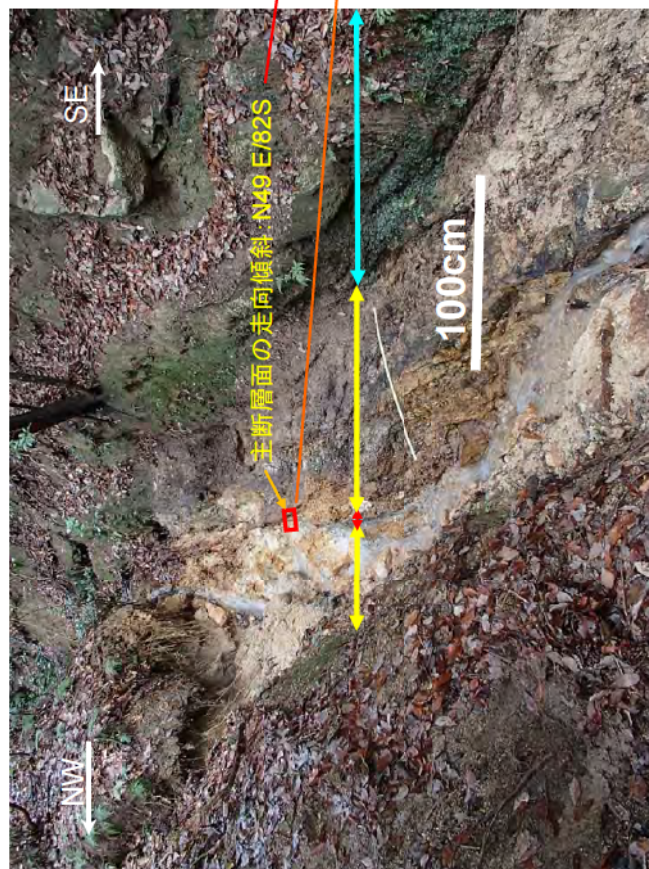


変動地形・リニアメントの凡例	
	Cランク
	Dランク
短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。 短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。	
	河川屈曲

第1.4.61図 L-5リニアメント周辺の地形調査結果



第1.4.62図 L-5リニアメント周辺の地質図

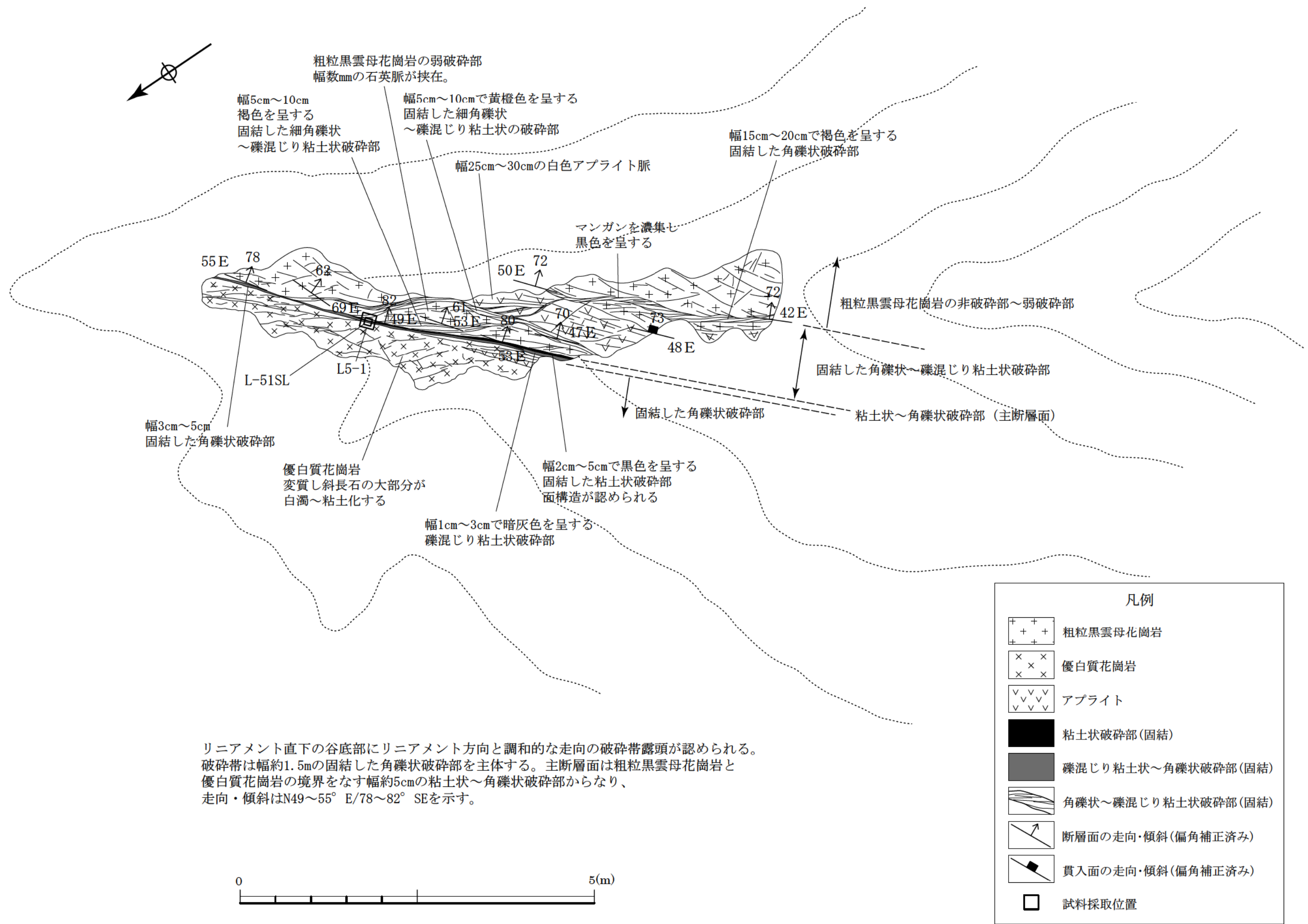


破砕幅: 固結した角礫状破砕部約1.5m程度

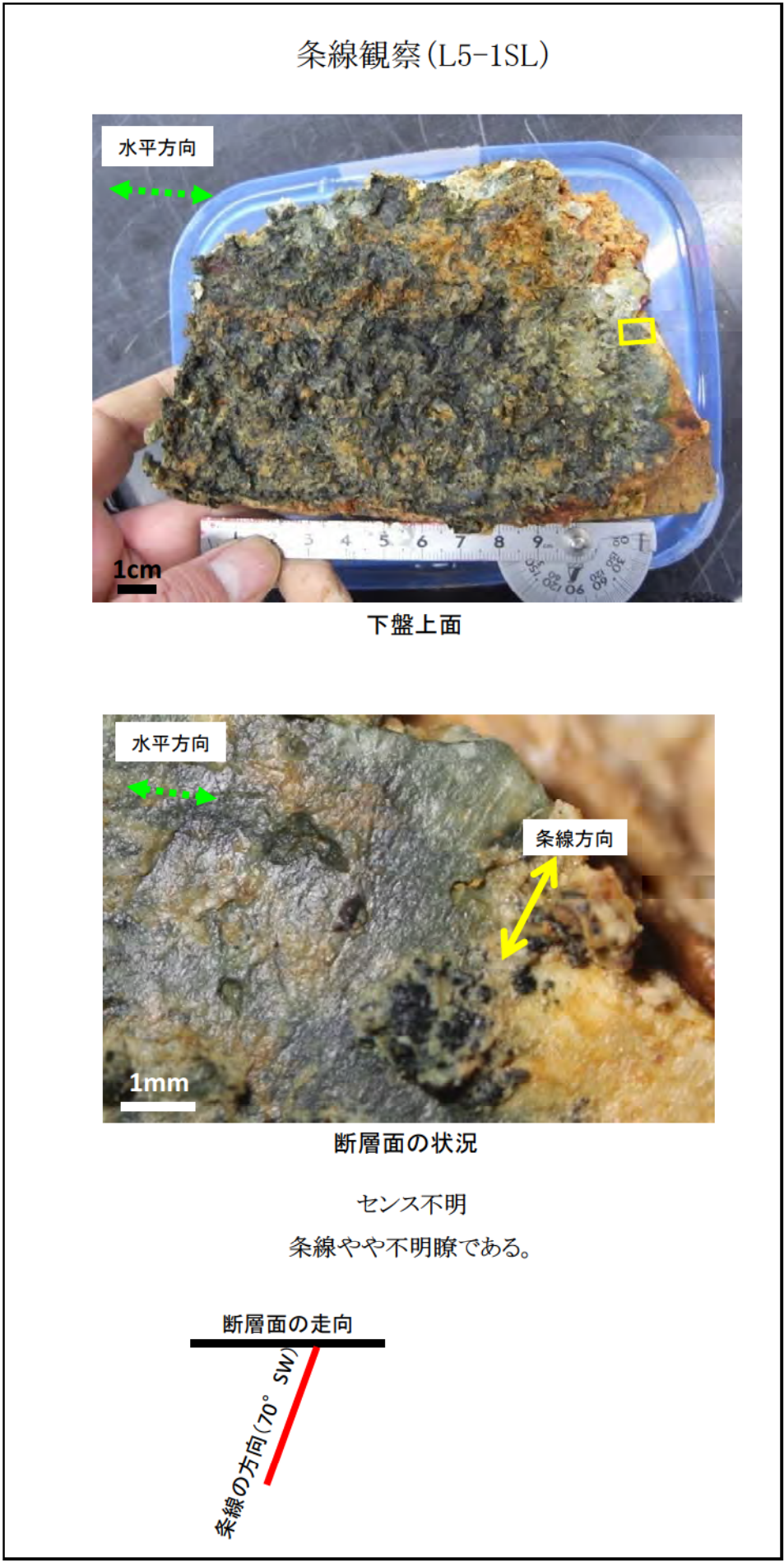
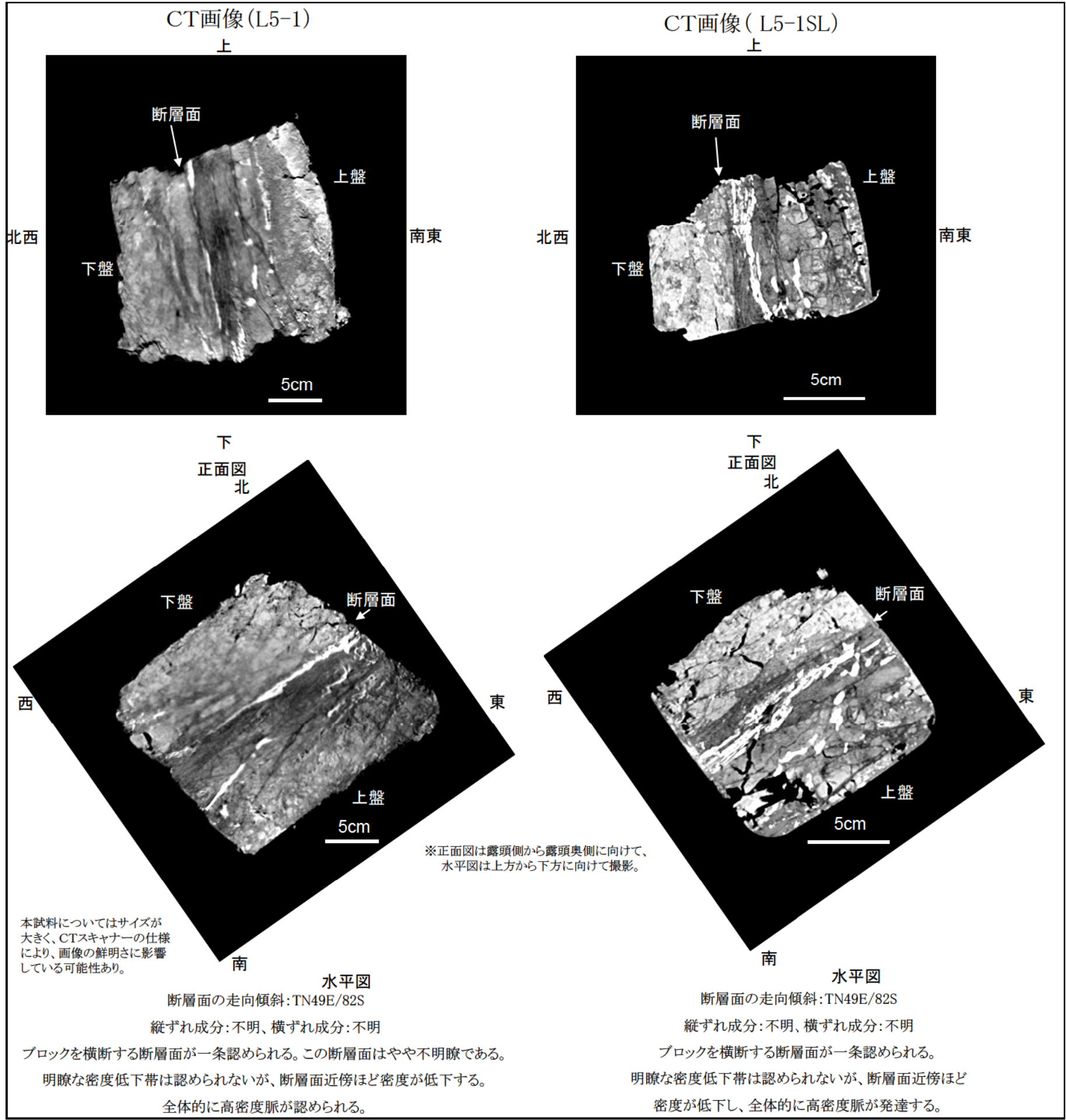
粘土状～角礫状破砕部 (約1cm～5cm)

固結した角礫状破砕部 (上盤側約80cm、下盤側約70cm)

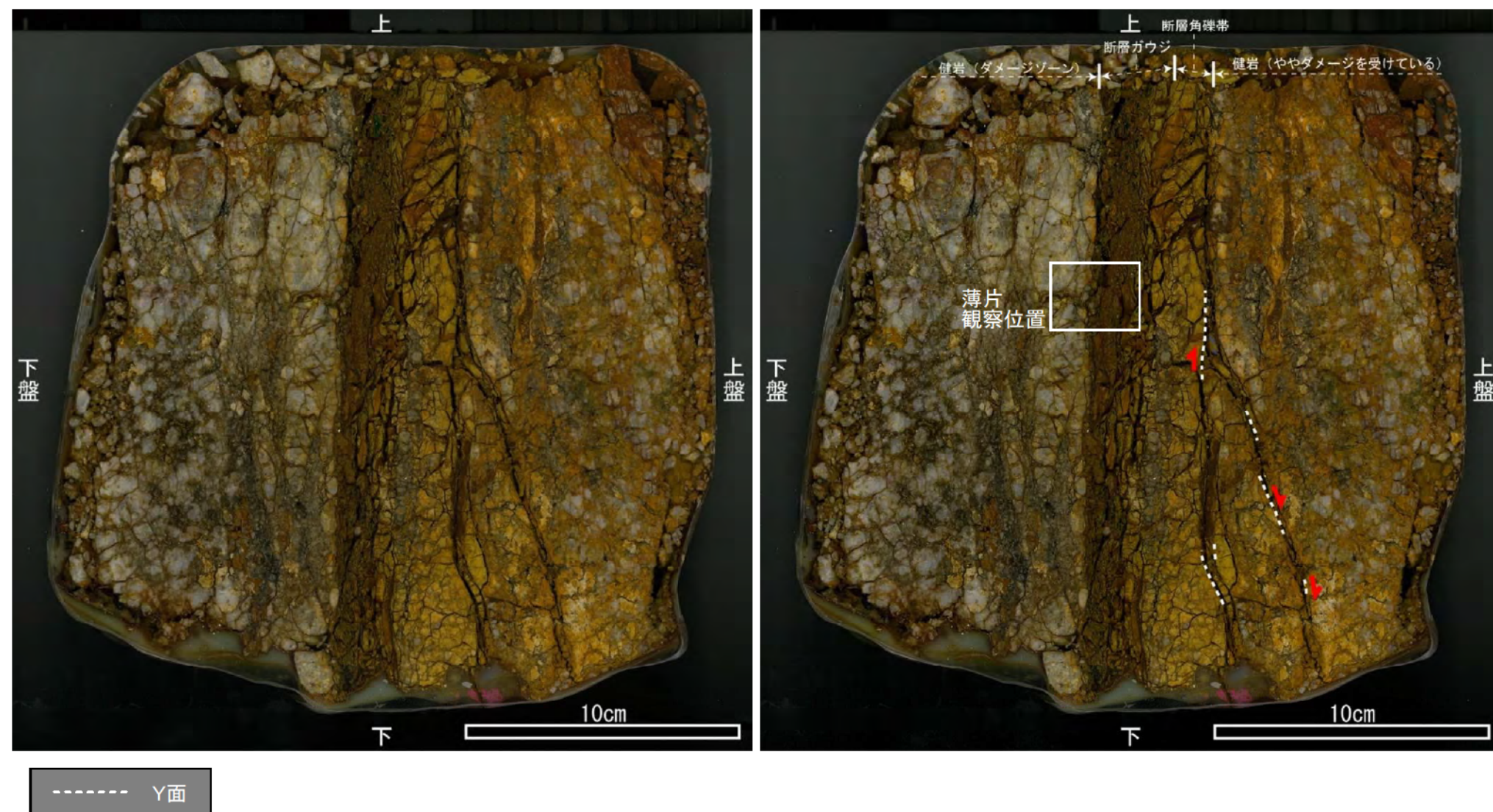
第 1.4.63 図 L-5 リニアメント (西側) f 地点～g 地点の露頭写真 (Loc. L5-1)



第1.4.64図 L-5リニアメント（西側）f地点～g地点の露頭スケッチ（Loc. L5-1）



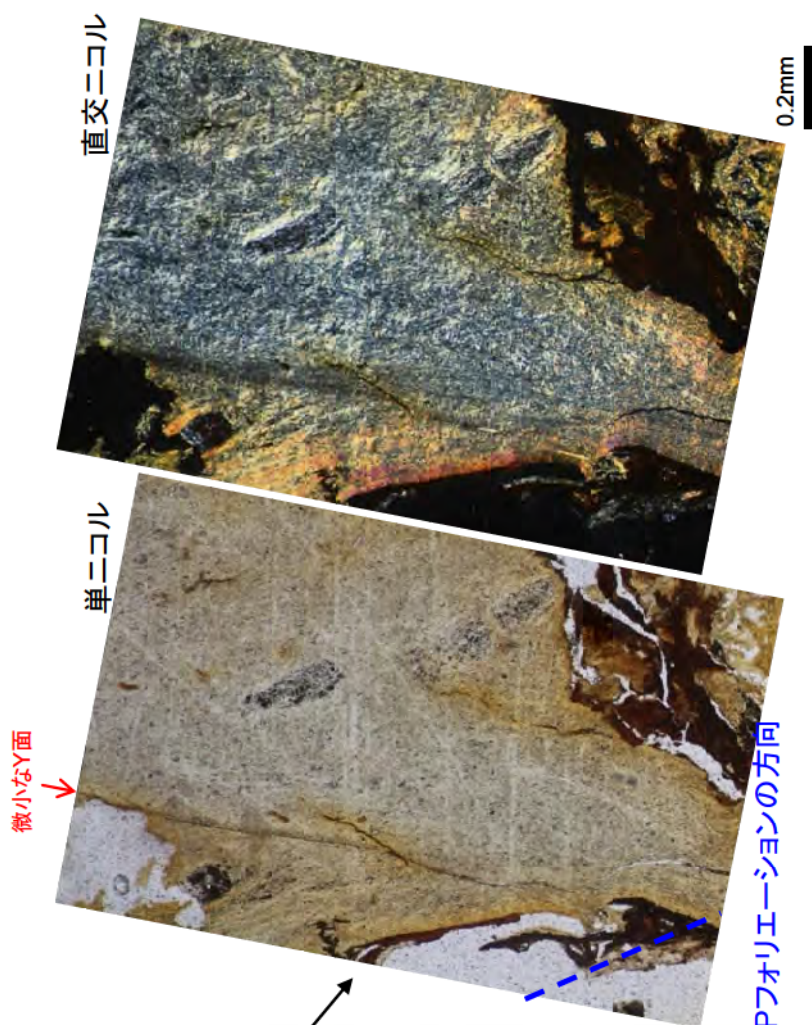
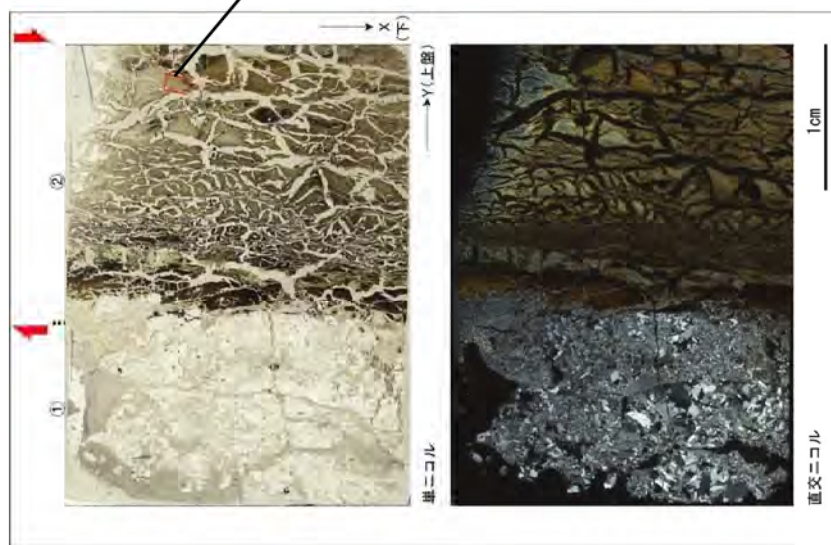
第 1. 4. 65 図 L-5 リニアメント f 地点～g 地点間の破碎部 ブロック試料の CT 画像観察結果及び条線観察結果 (Loc. L5-1)



研磨片観察結果

- ・分帯: 研磨片中には健岩と断層ガウジ、断層角礫帯が認められる。
- ・全体的に変質・流入粘土の影響が強く、断層岩が収縮しているため、明瞭なY面や変形指標は認められない。この流入粘土はCTで認めた断層面通過部にも入り、断層構造が不明瞭になっている。一部の微小なY面に沿って右横ずれ正断層センスを示す軽微な変形指標が認められる。
- ・上盤側の健岩は下盤側の健岩に比べ、変質が激しい。

第 1. 4. 66 図 L-5 リニアメント f 地点～g 地点間の破砕部 ブロック試料の研磨片観察結果 (Loc. L5-1)



②中に右横ずれ正断層センスを示すPフォリエーションが認められる。

薄片観察結果

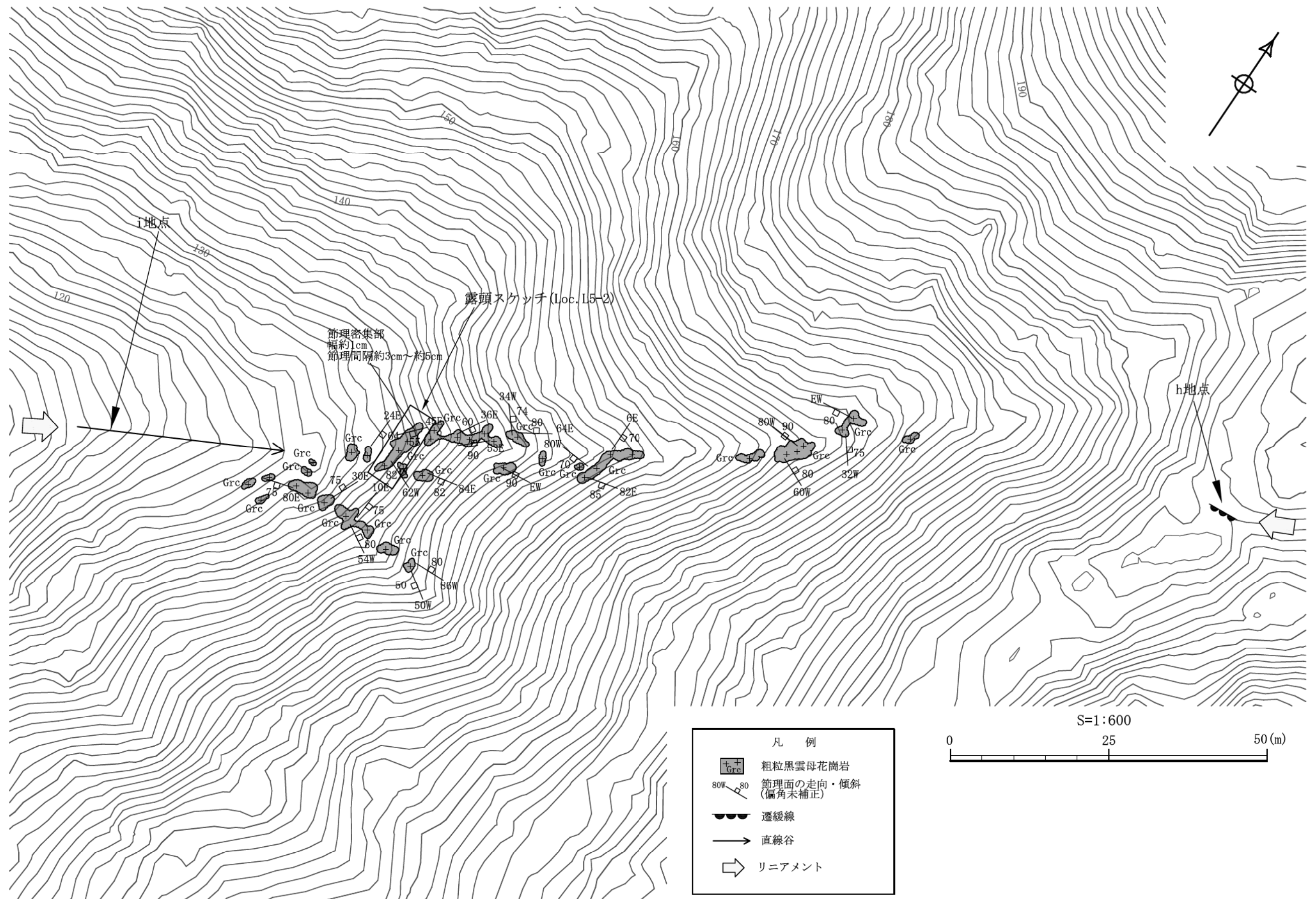
・分帯: ①健岩(ダメージゾーン)、②断層ガウジ

・分帯はテクスチャーに基づく。

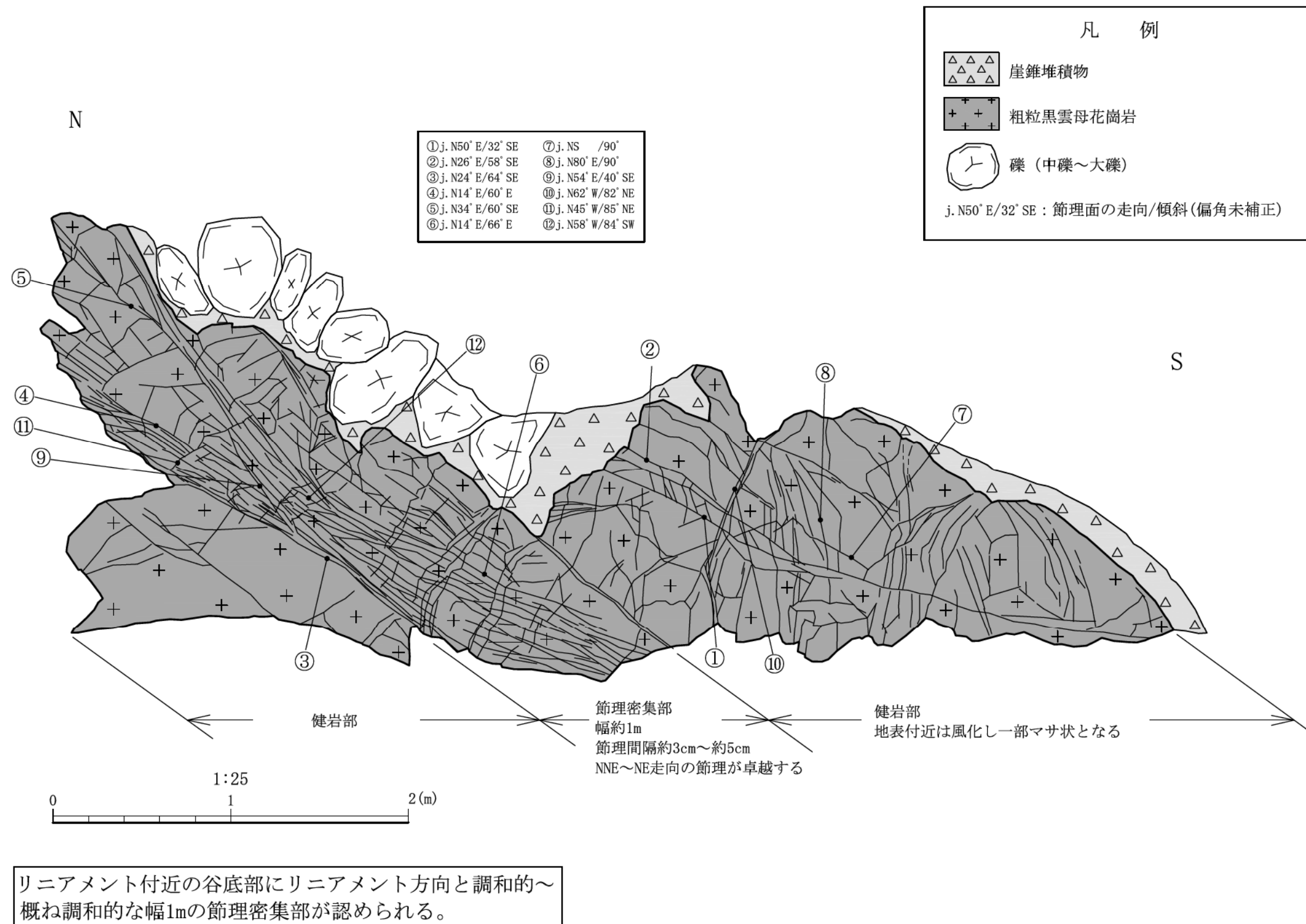
・②は全体的に収縮が激しいとともに、不透明鉱物が多数発達する。特に、この不透明鉱物はCTで確認した断層面通過部(①と②の境界部)に発達するため、①と②を境界付ける断層面は確認できない。薄片を横断するY面は認められない。②中の微小なY面に沿って右横ずれ正断層センスを示す変形指標が怪微に認められる。層状構造は認められない。

・①: 斑晶は主に石英からなり、割れ目沿いでセリサイトが発達する。石英のポリクウォーズ化が顕著に認められる。

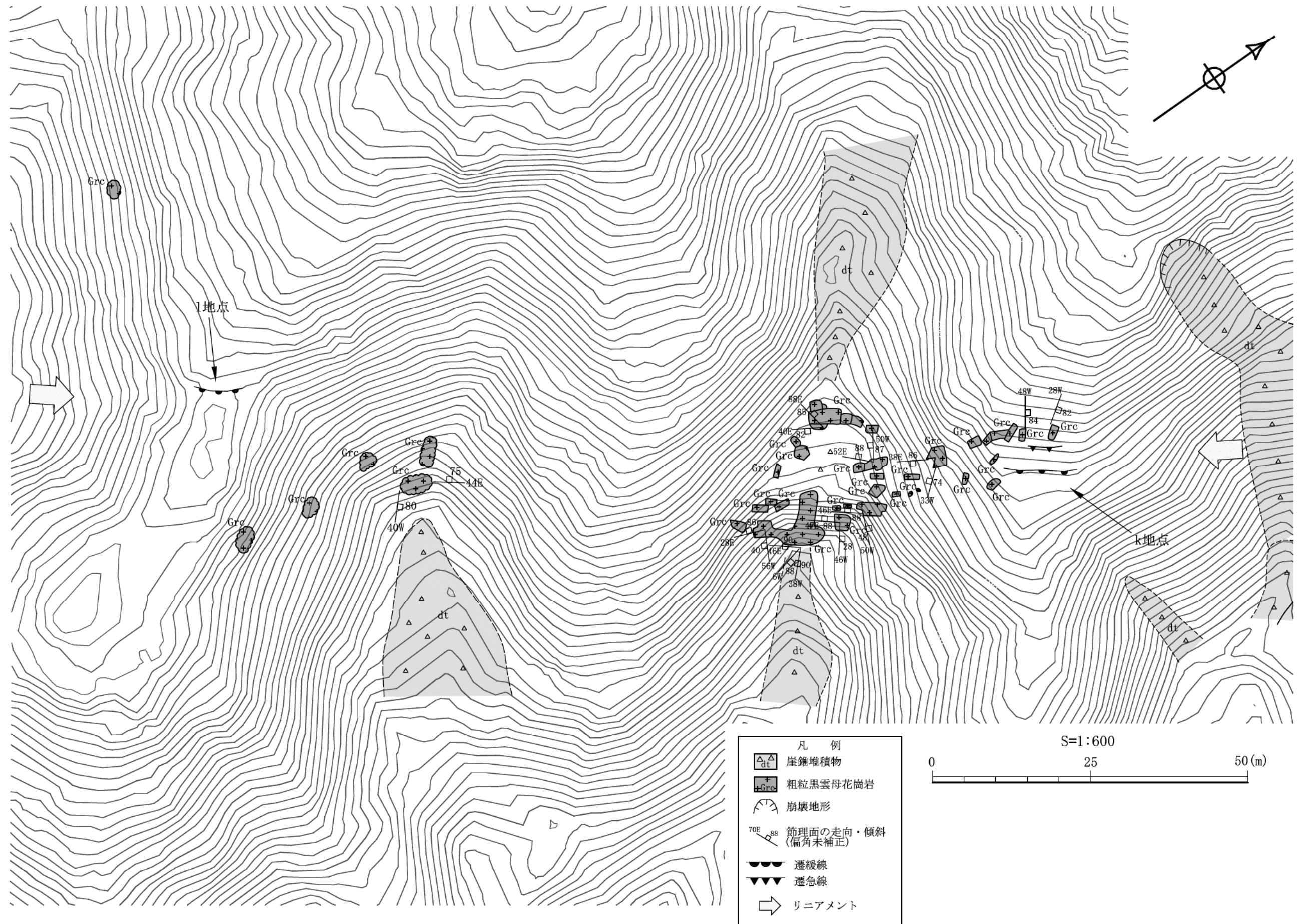
・②: フラグメントは石英や細粒砕屑物からなり、マトリックスは細粒粘土鉱物からなる。



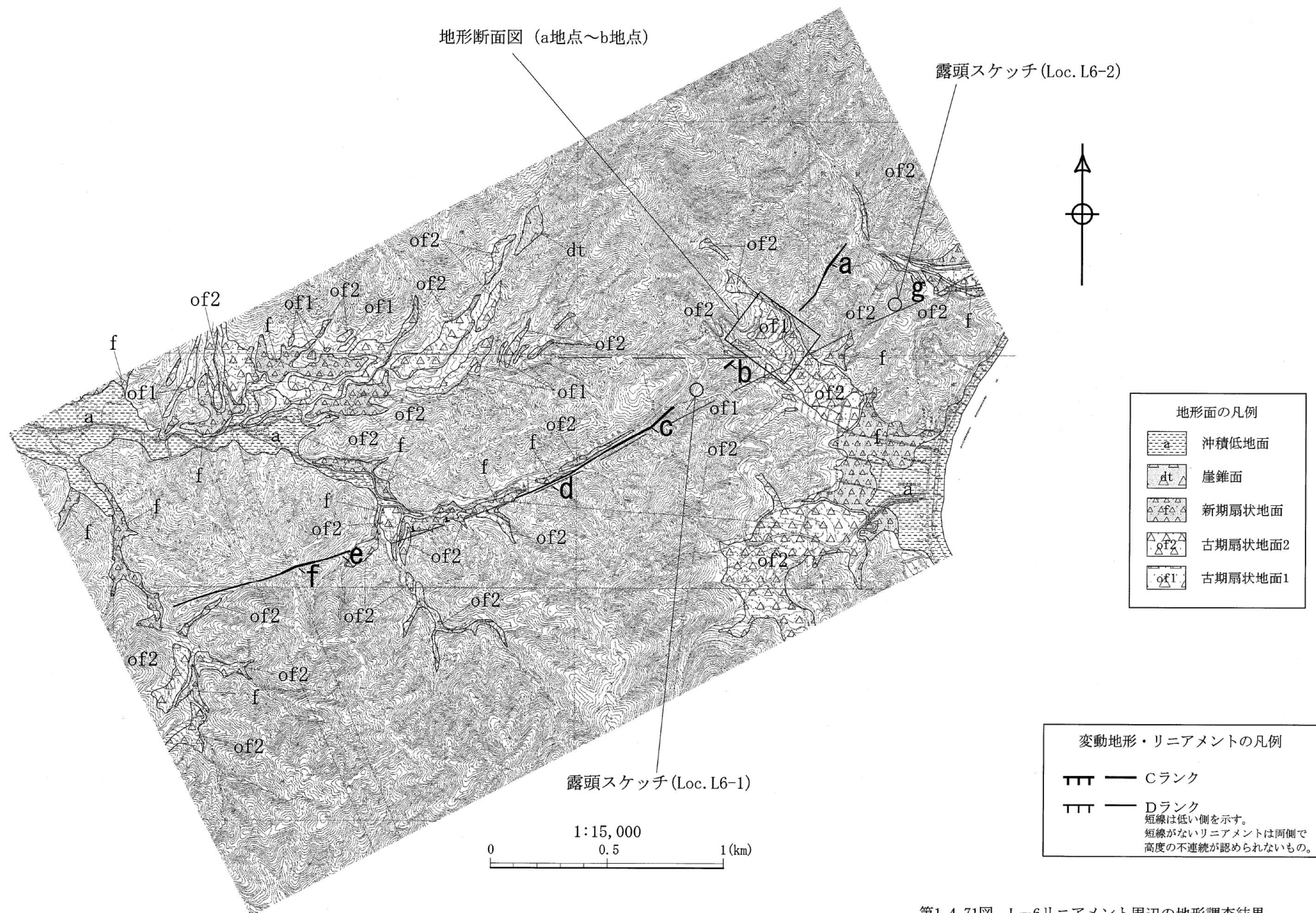
第1. 4. 68図 L-5リニアメント (西側) 詳細ルートマップ (h地点~i地点)



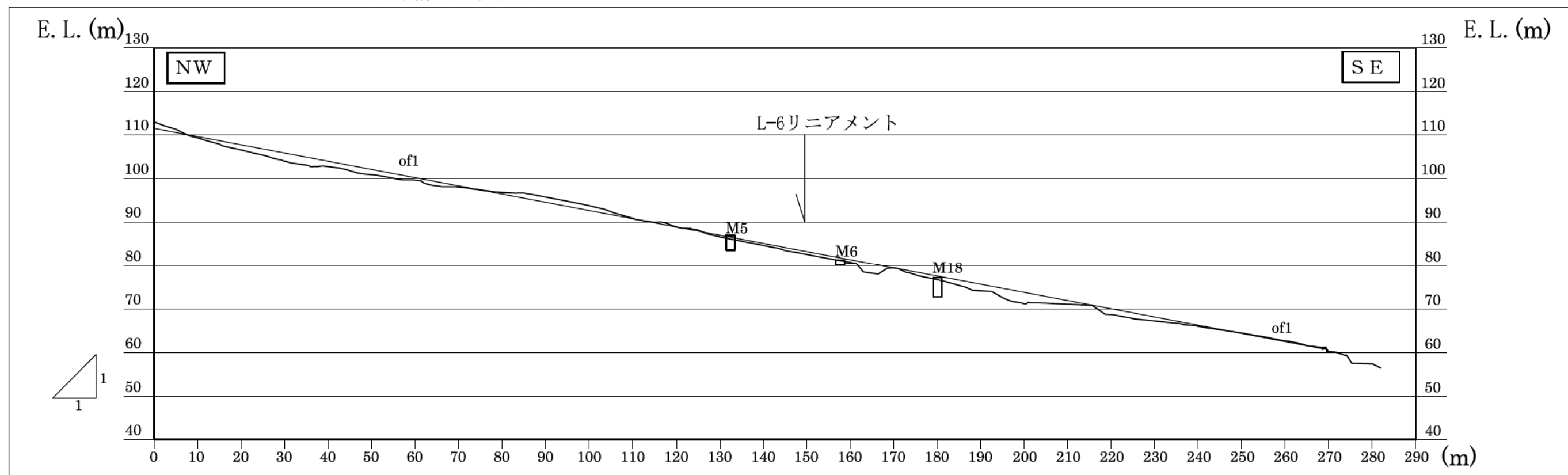
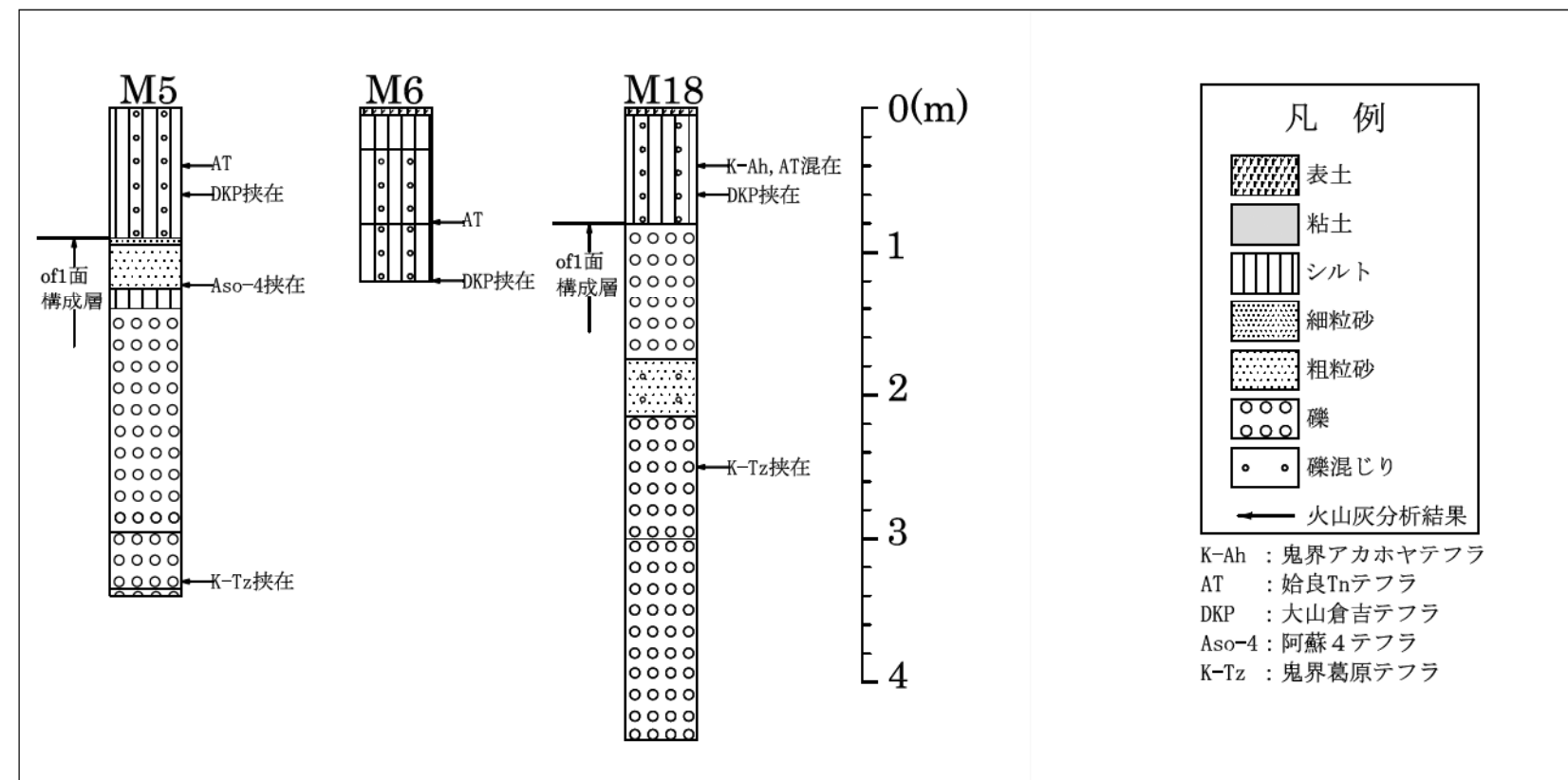
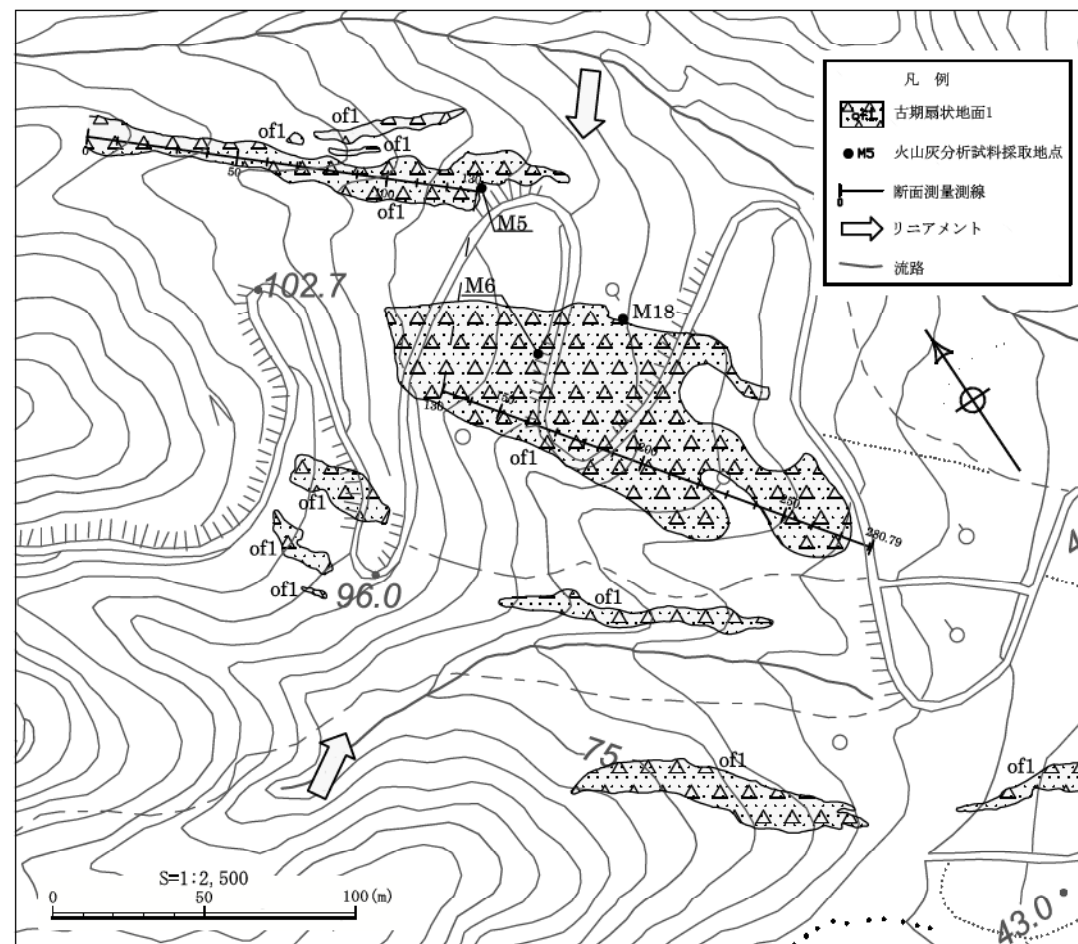
第1.4.69図 L-5リニアメント (西側) i地点の露頭スケッチ (Loc. L5-2)



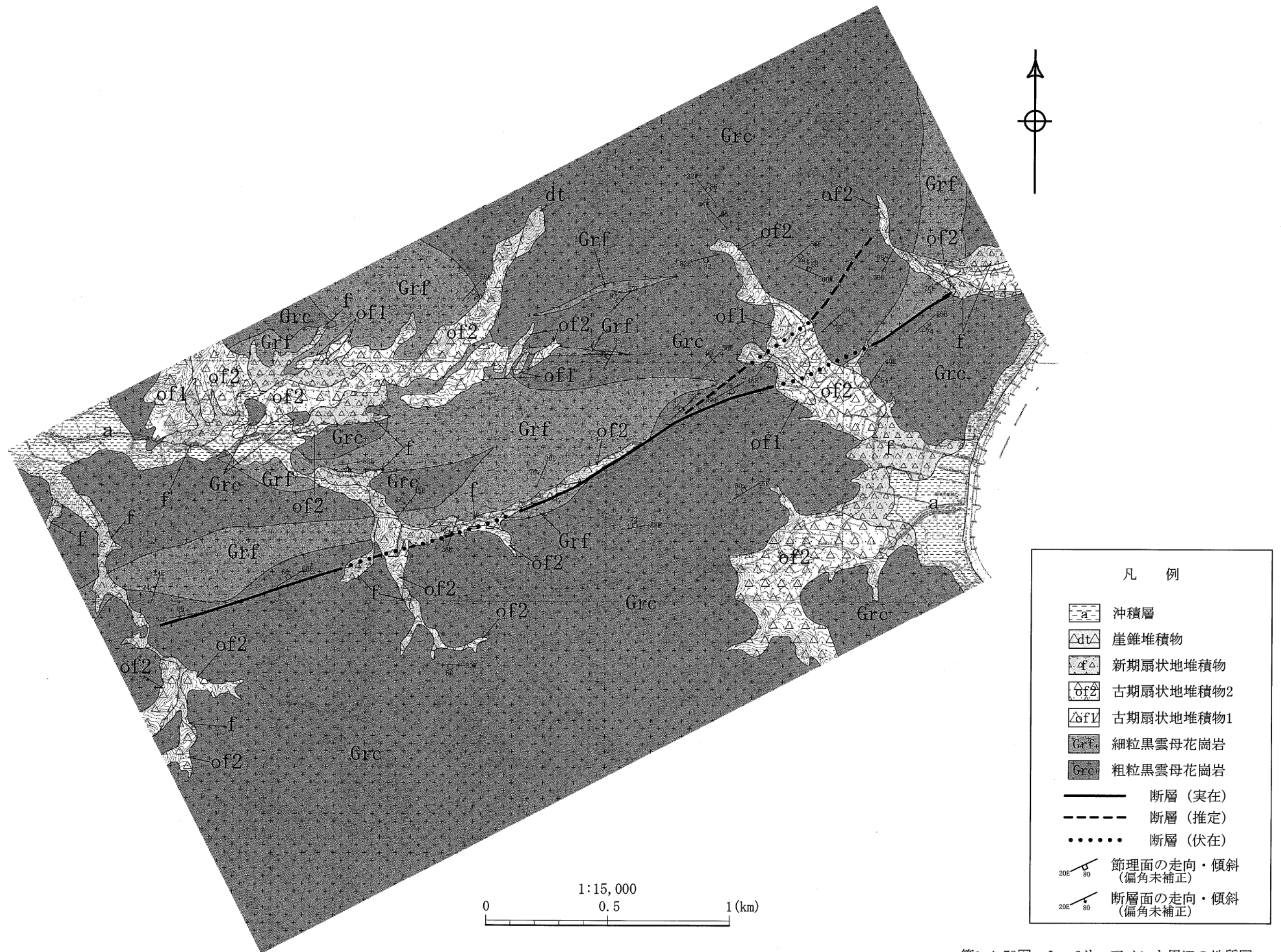
第1.4.70図 L-5リニアメント (東側) 詳細ルートマップ (k地点~1地点)



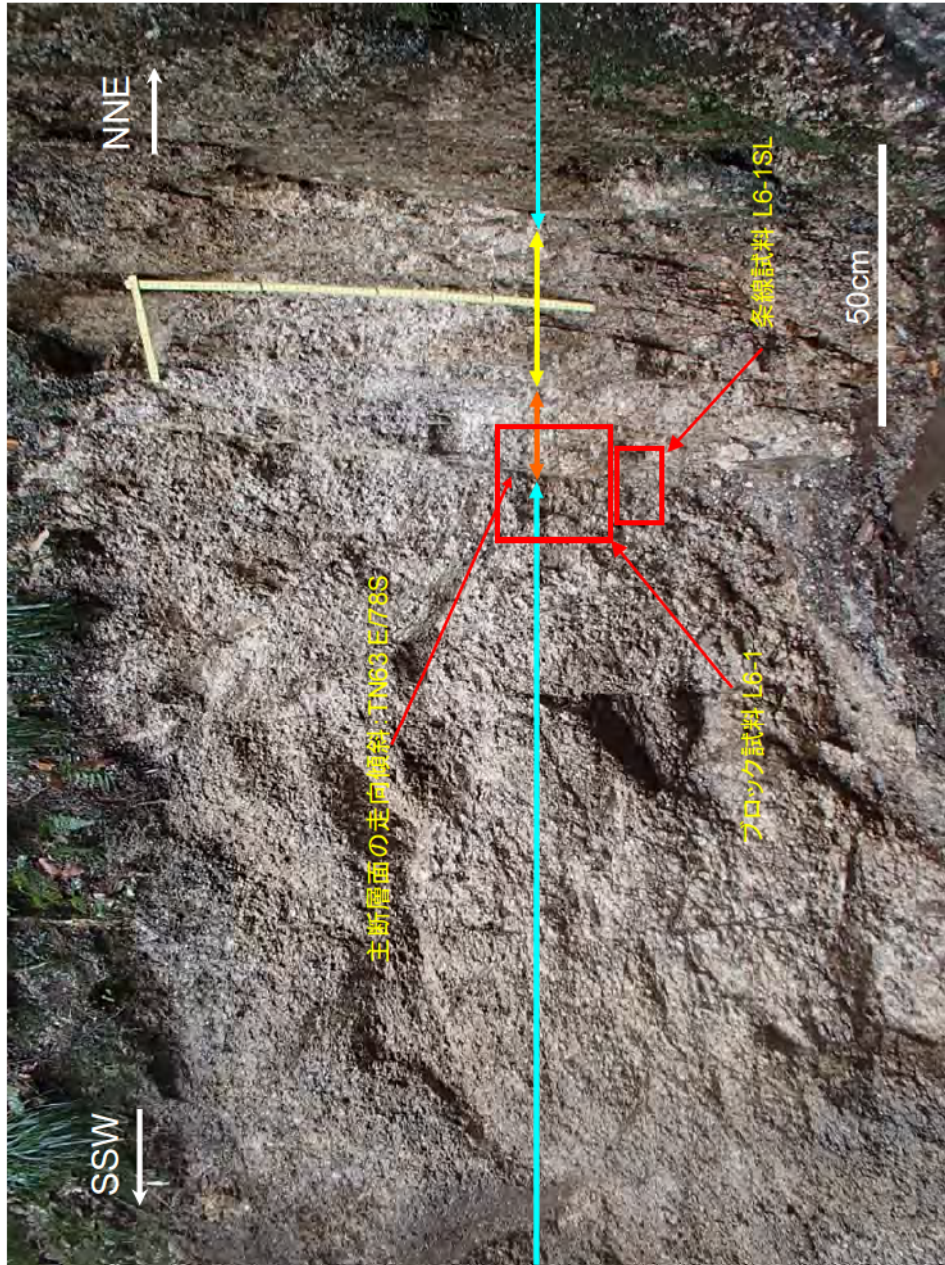
第1.4.71図 L-6リニアメント周辺の地形調査結果
6-1-701



第1.4.72図 L-6リニアメント地形断面図 (a地点～b地点)



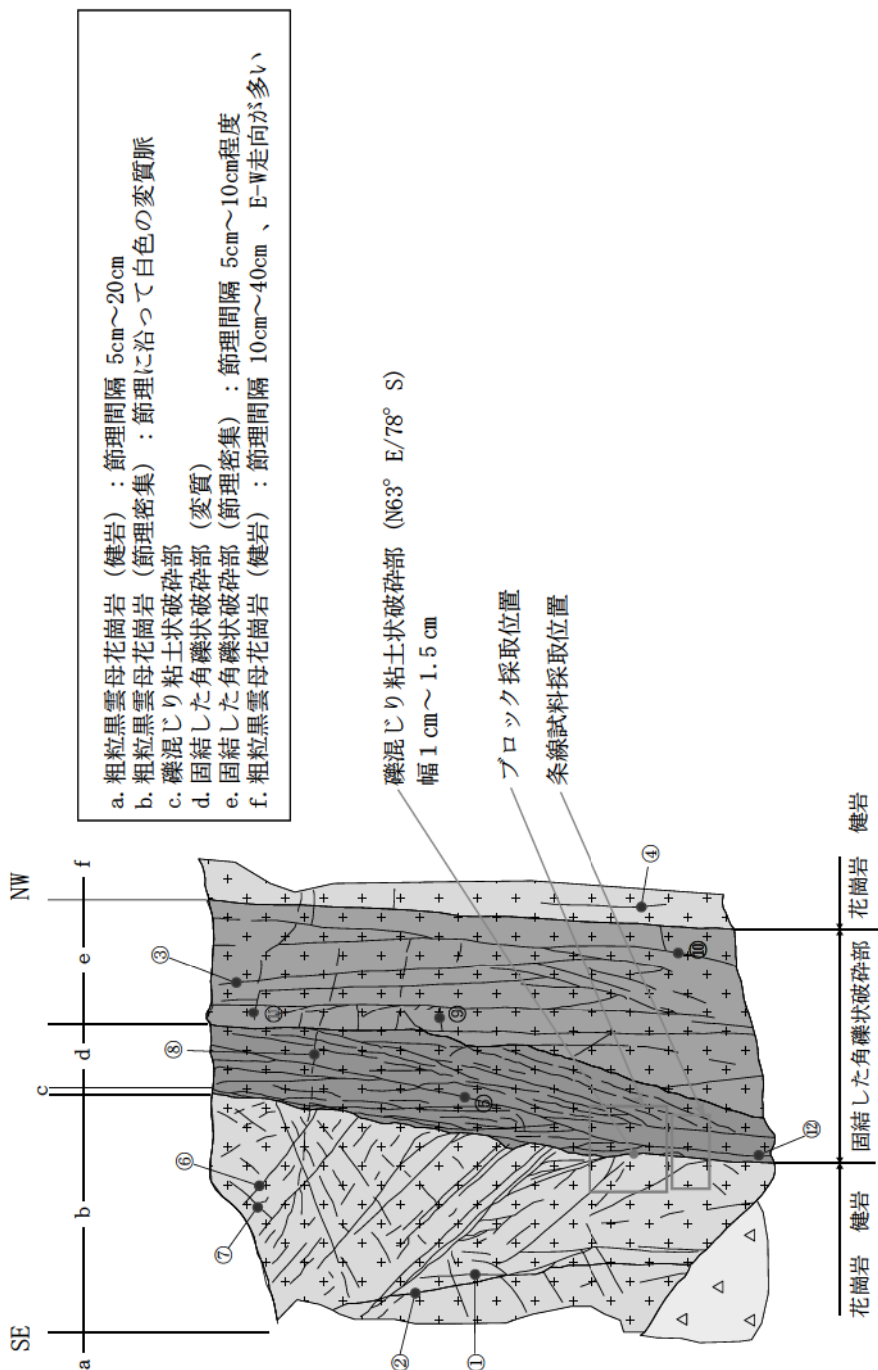
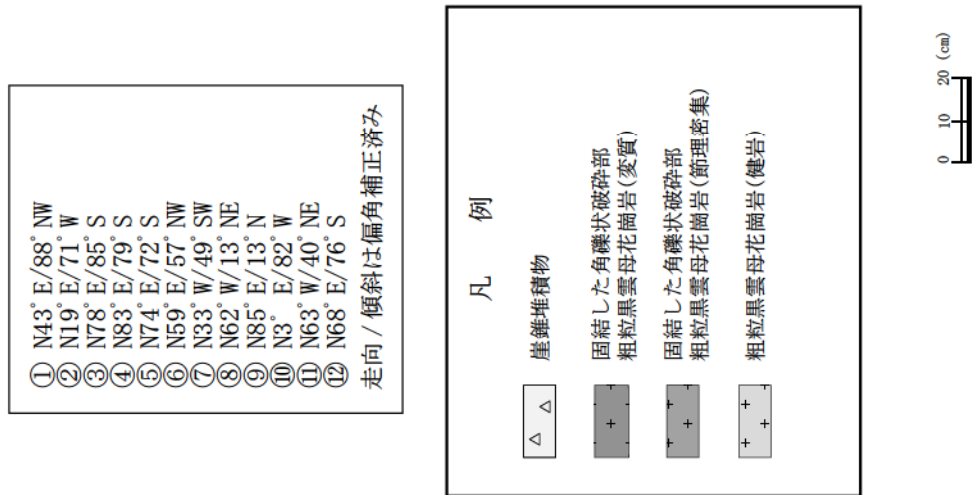
第1.4.73図 L-6リニアメント周辺の地質図



	健岩
	固結した角礫状破砕部 (節理密集)
	固結した角礫状破砕部 (変質)

破砕幅: 60m ~ 70m 程度
 粘土混じり角礫状破砕部 (幅 1cm ~ 1.5cm)

第 1.4.74 図 L-6 リニアメント b 地点南西方の露頭写真 (Loc. L6-1)



谷底部に露頭する粗粒黒雲母花崗岩中に、リニアメントと調和的なENE-WSW方向の破砕帯が認められる。破砕帯の全体幅は60 cm～70 cmで、固結した角礫状破砕部からなる。固結した角礫状破砕部中には、礫混じり粘土状破砕部(N63°E / 78°S)が、幅1 cm～1.5 cmで挟在する。

第1.4.75図 Lー 6リニアメントb地点南西方の露頭スケッチ (Loc. L6-1)